

No.1904

3月2日例会 プログラム 「識字率向上月間に因んで」 松尾 洋二君

3月9日例会 プログラム 「葉隠とは」 緋田 秀雄君

3月2日のメニュー ・海老のチリソース ・若鶏のから揚げ ・堅焼きそば ・中華チマキ ・コーヒー

前回(2月23日)例会記録

出席報告	会員総数	38名(内出席規定適用免除者2名)	出席者数	25名	欠席者数	11名	出席率	69.44%	前回補正率	72.22%
	前回補正者	緋田君 三宅(孝)君 白石君								
	欠席者	藤原君 花岡君 羽賀君 東川君 井上君 松王君 仲田君 中山君 大久保君 山田(次)君 山田(孝)君								

来訪者 上野 實様(第2690地区 第10グループ ガバナー補佐)

会長挨拶

こんにちは。例会出席ありがとうございます。お客様の紹介を致します。第10グループガバナー補佐 上野 實様です。ようこそいらっしゃいました。先週の土曜日、三宅幹事、白石社会奉仕委員長と3人で岡山南RCの「岡山の暮らしと環境から今、地球に贈るメッセージ」と題した環境フォーラムに行ってきました。3時間ほどのフォーラムで、特別講演は小池百合子前環境大臣の話もありましたが、私が気になった活動は、岡山市京山地区のESD(持続可能な発展のための教育)環境プロジェクトの活動報告でした。活動の主体が公民館をメインとしたコミュニティーで小学生、中学生、老人会等地域の人々が用水の清掃活動、用水の魚の生態調査、そして旭川の源流の調査等、自分達の地域の環境を良くしていこうという気持ちのあふれた報告でした。当玉野においても地域の連帯が薄れてきていると思われまます。岡山市京山地区の活動は参考になると思えます。玉野でも少しずつでもいいですから活動を立ち上げればと思います。以上、会長挨拶と致します。

ビジター挨拶 上野 實様(第2690地区 第10グループ ガバナー補佐)

こんにちは。玉野ロータリークラブに来ますと、テーブルの上にいつも可愛い花が飾られ、とても良い習慣であると思えます。本日は去る1月28日に行われましたIMのお礼に参りました。当日は350名の会員に参加いただき、特別講演、パネルディスカッションの内容も良く、成功裏に終わったと思っております。玉野ロータリークラブには全員登録いただき、また当日には多くの方に参加いただき、IMを盛り上げていただき誠にありがとうございました。またCLPについてはパネルディスカッションを聞いてお分かりいただけたと思いますが、第10グループにおいてはCLPをやっているというクラブはないようです。CLPをしたからといってすぐにクラブが活性化するかは疑問であるという意見もあります。本日は貴重なお時間をいただきありがとうございました。

幹事報告

- ・ 岡山中央ロータリークラブより、創立20周年記念式典の案内が届いております。
5月12日(土) ホテルグランヴィア岡山にて。
- ・ たまの人形劇フェスティバル実行委員会より、去る12月3日玉野レクレーションにて開催されました「第17回たまの人形劇フェスティバル」の事業報告書と支援に対するお礼状が届いております。
- ・ ロータリー用品販売のオクトンから、2007-2008年度国際ロータリーのテーマ「ロータリーは分かち合いの心」の例会場掲示幕やテーマ入りの名刺の販売案内が届いております。
- ・ 新宮ガバナー事務所より改訂版「ロータリー情報マニュアル」購読のお願いが届いております。
- ・ 飲酒運転撲滅運動「だめ!飲酒運転」リボンマグネットを回覧します。希望者は購入願います。
- ・ 3月のロータリーレートは2月と同様118円/ドルです。
- ・ 他クラブの週報・例会変更通知は回覧いたします。

委員会報告

- ・ ハイロー会:
(1) 平成19年ハイロー会年間日程表をお配りしていますのでご予定願います。

- (2) 2月25日瀬戸大橋CC スポンサー杯に参加される方は時間等再確認願います。
- (3) 3月21日瀬戸大橋CC 開場記念杯に6組予約しておりますので奮って参加願います。
- (4) 4月29日山本 勇一先生の米寿祝ゴルフコンペを開催します。

スマイル・ボックス

- ・白石君 - 上野ガバナー補佐、よくいらしゃいました。いつも有難うございます。
- ・富永君 - 上野ガバナー補佐様、よくお出でくださいました。
- ・三宅(保)君 - 上野ガバナー補佐のご訪問を歓迎いたします。
- ・島田君 - 上野さま、ようこそ。
- ・三宅(孝)君 - 車を換えました。
- ・三宅(一)君 - 本日、卓話をします。
- ・三宅(照)君 - 遅刻です。

プログラム 「姓の話」 三宅 一昌君

仕事上いろいろな名字(姓)を見ますが、その意味をあまり考えたことはありませんでした。ところで「苗字」とは近世以降の家号で、「苗」の文字は祖先の出身を表わします。「名字」は中世の用法で、「名」とは当時の貴族、豪族が所有していた土地のことで、所有の印にその名をつけました。「大名」などはその名残であります。「氏(ウジ)」は漢字が導入される前の大和ことばで身内、血族の「チ」が元になっています。少し話はそれますが、中国で使われる「氏」は、元は絵文字の「氏」、すなわち包丁を表わします。北方氏族は獲った鹿その他の動物の肉を、一族の長がこの包丁で切り分け、与える、これが一族の団結の印でありました。従って北方男系家族の支配する文字でありました。一方、「姓(カバネ)」は“扁”と“旁”に分けると「女が生む」となるように南方女系家族の言葉で、これを「カバネ」という大和ことばにあてています。

話がそれてしまいましたが、仕事で色々な名字を見ていると、珍しいもの、変わった名字、すぐには読めない名字が多くあります。そんな名字を眼にすると興味が湧いて事典で調べてみることもありました。そんな時、ふと自分の名字「三宅」が玉野に多いことに気づき、自分のルーツでもある名字を調べるきっかけとなりました。我が玉野ロータリークラブでも4名、すなわち10%強もいます。私事ではありますが自分のルーツを調べると、父は昭和41年玉野市秀天に病院を開いた医師でした。祖父は小学校教員で、教え子は現在70~80歳位のお年寄りになっています。曾祖父は荘内村長で、お年寄の方々はこの家を“旧村”と呼んでいます。5代前は慶応2年(1866年)より明治5年(1872年)まで、児島湾を埋め立てて干拓した人で、屋号を泉屋新田といい、今も排水ポンプ場の名前として残っています。同時に加茂八幡宮の隣で酒造業を営んでおり、酒の名前は“加茂泉”であったそうです。それ以前は田井、その前は山田にいたようで、それぞれに土地のみ残っています。

さて、玉野の三宅は古代の「屯倉(ミヤケ)」がもとの、7世紀欽明天皇17年に大臣の蘇我稲目が東児島に屯倉(ミヤケ)を作り長官を山田直瑞子(アタイミズコ)に命じたのが始まりで、後年三宅郷と呼ばれます。三宅郷は永禄9年(1566年)の文書では大崎、八浜、波知、飽浦、小串、番田、胸上、山田、後閑のあたりをいいます。次に由加と三宅の伝説についてお話しします。白河天皇の頃、白河天皇の病を治すため、鬼面を持った子供を撰津の大物浦より流したところ、荘内の宇藤木(玉野自動車教習所のある辺り、当時荘内は海でした)に流れ着き、由加山に登りました。由加の南面の池(今の稚児の池)で鬼の面をかぶったところ鬼となり人々を苦しめましたが、そこで一人の勇者が鬼の面を切り、元の人間に戻したそうです。この子孫の三人兄弟が、兄が東郷太郎といい東児島に、次弟は加茂次郎といい児島の林地方に、末弟は西郷三郎といい西児島にあり、三家ということで後に三宅を名乗ったということです。

次に南北朝時代の児島高德ですが、1310年三宅範長の養子として誕生しました。1332年、隠岐に流される後醍醐天皇のもとに向かい、院庄で傍らの桜の木に「天莫空勾踐 時非無范蠡」という漢詩を彫り、忠臣の人も多いことを伝えた方です。本名は三宅姓で、三河の三宅氏の祖となったようです。

(三宅のルーツとは?)

屯倉、三家と同じ。上古における皇室の直轄地。はじめ、その地を管理した役人の役所や倉庫を意味したが、やがてその土地の名称となった。昔から大族として知られ、地名も日本各地に存在する。

- (一) 河内の三宅氏は漢族で、周の霊王の太子晋の後といわれる。周防の族も同系。
- (二) 筑紫三宅連から出た族は、多巨族で神八井耳命の裔。
- (三) 撰津の族は三宅連の族。

明治の評論家三宅雪嶺は雑誌「日本人」を発刊して、国粹主義を鼓吹し、以来50年にわたって論壇の雄として活躍した人。碁が趣味で誰かれなく打ったが、一風変わった手つきで、石を持っていて置いてくるといった仕草、昔の将棋名人小野五平に似ていたという。この人、加賀金沢の人。同族に三宅橘園、三宅右近などの著名人もいる。伝説化している備後三郎児島高德も同族で遠祖は天日命の後三宅宿禰という。前衆議院議員三宅則義氏も三河の三宅族だが同系統。東大物性研究所長三宅正一氏は安芸の三宅族で赤松氏族。ほか、伊予の河野氏族、近江の佐々木氏族、伊勢の榎野氏族、恒武平氏大掾氏族、清和源氏新田氏族などなかなか多い。